

平成23年9月猪苗代町議会定例会 町長所信表明要旨

本日、

平成23年第6回猪苗代町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には何かとご多用の中、ご出席をいただき、ご審議をお願いできますことに対し、深く感謝申し上げます。

今議会が開催されるにあたり、平成22年度歳入歳出決算の認定をはじめ、平成23年度一般会計補正予算案など、重要な議案を提出いたしておりますので、ご審議をお願いいたしますとともに、議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

提出議案の説明に先立ちまして、当面する町政の諸課題につきまして、所信の一端を申し上げたいと存じます。

（予防接種における誤接種について）

はじめに、予防接種における誤接種事故についてご説明申し上げます。

本町が実施いたしました予防接種で、委託先の小川医院において日本脳炎ワクチンの接種量を間違えて接種する事故が発生いたしました。

誤接種を受けた女兒及びその保護者並びに町民の皆様には大変ご迷惑をおかけし、深くお詫び申し上げます。

事故の概要であります、本年8月23日に町内の1歳2か月の女兒に対し、日本脳炎ワクチンを3歳未満であれば0.25ミリリットルの接種のところを誤って0.5ミリリットルを接種したものであります。

事実が判明いたしましたのは、翌日24日、女兒が発熱のため会津若松市内の小児科外来で受診した際に、医師が母子手帳に記載されていた日本脳炎ワクチン接種量が0.5ミリリットルであったため、同医師より当町の母子保健担当保健師に事実確認の依頼があり、小川医院で予診票の確認を行った結果、誤接種と判明したものであります。

なお、発熱はワクチンによる副反応ではなく風邪によるものと当該小児科外来医師の診断を受けております。

同日に女兒の健康状態と接種の経緯を家族より確認し、早々に保護者及び家族に謝罪と事実経過の報告の申し出を行いました。が保護者のご都合により、翌日26日に保健福祉課長、母子保健担当保健師、予防接種担当で女兒宅への訪問し、あらためて謝罪と事実経過のご説明申し上げたところ

ろであります。女兒の健康状態に異常はありませんでした。

また、私も、女兒宅を訪問して、保護者に改めて謝罪を申し上げたところであります。

今回の事故において、女兒の健康状態は幸いに異常がありませんでしたが、今後とも、保護者との協力体制により女兒の経過観察を行なってまいります。

小川医院に対しては、提出された「ワクチン誤接種の原因検証と再発防止対策の報告書」に基づき、再発防止に努めるよう指導してまいります。

今後の再発防止対策として、「予防接種手帳」の見直し、「予防接種日程表」の見直しを行い、適正な予防接種の実施が確保されるよう努めてまいる所存であります。

（東日本大震災について）

はじめに、東日本大震災について申し上げます。

東日本大震災から6か月を迎えようとしておりますが、いまだに、原子力災害が続いております。

避難生活を余儀なくされている皆さんを始め、放射能による出荷制限や風評被害で苦しんでいる皆さんの御心労、御苦勞に対して、心からお見舞い申し上げます。

原子力災害は、今でも新たな課題が次々に発生、発覚するなど、収束の兆しは見えません。

私たちが一日も早く安心して暮らしていけるよう全力を挙げて取り組むよう、あらためて国へ要請するものであります。

町内に設置されておりました、1次避難所のすべてが閉鎖され、2次避難所として町内のホテル・旅館等に避難されておる相双地区の皆様も先月末をもって多くの方々が仮設住宅等へ転居されましたが、諸事情によりいまだに避難所生活を強いられておられる方々が約1,100人程おられますが、このすべての方々もいずれは仮設住宅や民間借り上げ住宅等へ転居しなければなりません。この方々の転居は、本町経済に大きく、影響を及ぼすものであることから、速やかにその対策を関係機関と共に講じてまいり所存であります。

（風評被害対策について）

次に、原子力災害に伴う風評被害対策について申し上げます。

風評被害対策につきましては、今日まで、出来る手立てを講じてまいりました。

風評被害対策委員会では、首都圏における農産物や磐梯山ブランド商品の販売と観光PR、大手

観光エージェントへの誘客要請、安心・安全な猪苗代を全国に向けたテレビ放映などを行ってまいりました。

また、友好都市の長野県伊那市では、「伊那まつり」や「高遠ご城下まつり」に参加をしながら、本町の魅力をPRして頂くと共に、「猪苗代花火大会」への協賛など、心温まるご支援をいただきました。

更には、4年ぶりとなる花火大会が「希望」をテーマに、サブテーマを「復興イベント福島の子ども達に希望の花火を見せてあげたい」として猪苗代花火大会が観光庁をはじめ多くの機関・団体のご協力のもと、盛大に開催され、町民をはじめ、避難されておられる方々や観光客の方々に感動と明日への希望を与えることができた大会であると確信しております。

今後は、秋・冬に向けた旅行商品の造成や旅行エージェントへの情報提供等を通して、機会ある毎に誘客に努めると共に、10月開催予定の

「県高等学校駅伝競走大会」や3,000人のランナーが猪苗代湖畔を走る「ゼビオ猪苗代湖ハーフマラソン」、来年2月開催の4,000人が参加する「2012第5回スペシャルオリックス冬季ナショナルゲーム福島大会」などの開催を通して、

元気な猪苗代を発信してまいる所存であります。

（原子力災害による農作物への影響について）

次に、原子力災害による本町農業、特に畜産農家への影響であります。肉用牛の敷わらに使用していた昨年の「稲わら」から基準値を超える放射性セシウムが検出され、福島県内すべての肉用牛の出荷停止、そして価格が大幅に下落などの事態となりました。

その後の県が策定した牛の安全管理や検査計画により安全性が保証されたことから、8月25日に解除となりましたが、事故直後の酪農の原乳廃棄に続き、畜産農家にとっては大きな痛手となっております。

一方、「町優良堆肥製造施設」における汚泥を原料とする普通肥料については、脱水汚泥からの放射性セシウムが国の基準値である400ベクレルを超える1,520ベクレルが検出されましたので、国の指示により出荷を停止している所であります。

また、牛糞等を原料とする特殊肥料については、町独自にモニタリング検査を実施したところ、58ベクレルの放射性セシウムが検出されましたが、国の基準値を大きく下回っていることから、通常通りの製造・販売を行っているところであり

ます。

今後、農家の方々に安心してご利用いただけるよう、定期的なモニタリング検査を実施し、安全性を確認したうえで製造販売を行っていくことといたします。

次に、水稻について申し上げます。

これから本格的な米の出荷の時期となりますが、米のモニタリング検査は、予備調査と本調査の二段階で調査することにしております。本町においては、予備調査で町内5ヶ所実施し、更に放射性物質が基準値を超えていなくとも本調査として各地区ごとに2ヶ所の計12ヶ所を調査することにいたしております。

水稻は、本町の基幹作物であり、米は国民の主食でありますので、安全・安心な食料として消費者に提供できるよう、県やJAあいづと連携を強化して、県の調査と合わせて、町独自に米、そばのモニタリング調査を実施してまいり所存であります。

（東日本大震災に係る被災家屋等ガレキ受け入れ状況について）

次に、東日本大震災に係る被災家屋等ガレキの受け入れ状況について申し上げます。

当初、ガレキの受け入れ期間を４月５日から
７月２９日までとしておりましたが、家屋等の取
り壊しがいまだに終わっていないことから、期間
を延長し、受け入れをしてまいりました。

８月５日現在の受入状況は、１６８世帯が搬入
し、このガレキの量は、柱、板等の木質系が
１，０９０トン、コンクリートが２，２２２トン、
金属系、不燃ごみ等が７０２トンの
合計４，０１４トンが搬入され、廃棄物処理され
ます。

しかし、一部に取り壊し等を終えない被災家屋
等があることから、受入期間を１１月３０日まで
延長し、その間、約２週間置きに計４回の受入を
設定して被災家屋等のガレキの受け入れに対処し
てまいります。

（原子力損害の判定等に関する中間指針について）

次に、原子力損害の判定等に関する中間指針に
ついて申し上げます。

文部科学省、原子力損害賠償紛争審査会は、被
害者と東京電力とが損害賠償について円滑な話し
合いと合意形成のための「東京電力株式会社が賠
償すべき損害」についての中間指針を８月に示し
ました。

この指針は、原子力事故が収束しない中において、賠償すべき損害の範囲を類型化して示したものであり、この指針で賠償の対象とされなかったものについても個別の対応とすることとしたものであります。

特に、私たちが強く望んでおりました、「営業損害」に限らず、「風評被害」や「間接被害」についても賠償の対象としたものであります。

9月には損害賠償受付が開始され、10月から賠償金の支払いが行なわれる予定でありますので、「風評被害対策連絡会議」の中で、町商工会、観光協会等と情報交換を行いながら、万全を期して対処してまいる所存であります。

しかし、この中間指針で明示されていない損害について、県を通して国に対して次のとおり、要望いたしました。

一つは、事故当日から今日まで、放射能による生活不安は計り知れないものがあり、特に子供を持つ家庭ではなお不安が募っている現況から、精神的苦痛への賠償範囲を指定区域のみならず、県内すべての地域を対象となるべきであること。

二つ目は、風評被害による観光業は大きなダメージを受けており、震災前の状態を取り戻すためには、数年の歳月を要する。この観光業に関

連する産業はすそ野が広いため、地域全体の経済が衰退していることから、関連する２次・３次の観光関連産業の具体的な類型として明示すべきであることを要望いたしました。

この原子力災害に対しては、国が全責任を持って十分な賠償や救済措置を行うよう、今後とも、県、町村会との連携により、強く訴えてまいります。

尚、この中間指針を受けて

「猪苗代町東日本大震災風評被害対策連絡会議」では今月末に東京電力福島原子力補償相談室を招いて、損害賠償相談会を開催することとしております。

（個人線量計配付等事業について）

次に、放射線量の測定について申し上げます。

東日本大震災による原発事故の長期化に伴い、放射線量の測定に関し県民の関心が高まっており、特に妊婦や子どもを持つ親の不安の解消は、子どもを健やかに生み育てるためにも重要な課題となっております。

本町における放射線量は安全なレベルにありますが、個人線量計により放射線量の確認を希望する町民の方が多いことから、個人線量計を貸し出

し、放射線量を測定することにより町民のより一層の安心感を確保することを目的として

「猪苗代町個人線量計配付事業」を実施することといたしました。

対象を妊婦と中学生以下の子どもとし、希望する方へ貸し出しを行い、２ヶ月毎の３回の回収・分析を行うもので、今年１０月より実施いたします。

これらの測定結果は、県へ提供し、全県民を対象として実施する、放射線の影響による不安の解消と将来にわたる県民の健康管理を目的とした「県民健康管理調査」と合わせて、専門家の助言、指導等を受けることにしております。

また、町内各地の空間線量の測定を毎日実施しておりますが、更に身近な場所での放射線量の測定値を希望する方々も多いことから、新たに空間線量計を購入し、行政区、町内団体等へ貸し出しを行なうことにいたしました。

これらの事業を通して、町民の放射線等への理解と健康管理に努めることはもちろんのことではありますが、特に放射線から次代を担う子どもたちを全力で守らなければならないことから、今後ともあらゆる手段を講じてまいり所存であります。

(第六次猪苗代町振興計画の評価と後期基本計画の策定について)

次に、第六次猪苗代町振興計画の評価と後期基本計画の策定について、申し上げます。

まず、第六次振興計画につきましては、平成19年度を初年度とし、平成28年度までの10カ年を計画期間と定め、その中間年次に当たる本年度において前期基本計画の点検評価と後期5カ年計画の見直しを行うことにしております。

このため、「前期基本計画の評価及び後期計画策定のための基本方針」を定め、施策の体系ごとに事業の妥当性、有効性、効率性を評価するとともに、それらの進捗状況、課題を整理し、さらに、さまざまな状況変化による緊急性や将来性、さらには財政状況の見通し等の要素を踏まえて、後期基本計画に反映させる考えであります。

現在は、すべての課等において、これまで実施しました事務事業の総括と課題の整理を行い、業務主任15名で組織する「後期基本計画検討部会」で前期計画の点検評価と後期計画の素案の策定を進めているところであります。

さらに、今月2日には、「猪苗代町振興計画審議会」を設置し、町議会からご推挙いただきました6名の議員と、学識経験者、関係団体の役職員の

皆様、さらに住民代表として各地区の区長会長様の20名の方々により、後期基本計画の調査及び審議をお願いすることとしております。

本年は、東日本大震災や福島原子力発電所の事故による放射能汚染、さらにはこれら伴う風評被害など、5年前には想定すらできない深刻な状況下であり、これらの災害の克服はもとより、これまで以上に安全、安心なまちづくりの基盤を構築することが喫緊の課題となっております。

こうした状況を踏まえ、後期基本計画の策定に当たっては、既成観念にとらわれないゼロからのスタートとの観念に立ち、町民の皆さんが将来に希望を持ち、安心して生活することができるまちづくりの実現を最大の目標として、実効性のある計画として再構築する考えであります。

（経済・雇用情勢について）

次に、経済・雇用情勢について申し上げます。

わが国の経済状況は、内閣府によりますと、2011年4月から6月までの国内総生産（GDP）速報値は、物価変動の影響を除いた実質で前期比率0.3%減少、年率換算で1.3%減少となりました。原因として、東日本大震災による供給網の寸断で輸出が大きく落ち込んだのが主な

要因であります。

県内の経済は、東日本大震災や福島第一原子力発電所事故などにより大きく悪化しており、現在は、一部の産業に持ち直しの動きが見られるものの、全体として原子力災害による風評被害等により、未曾有の打撃を受け、回復の見通しが立たない状況にあります。

会津地域は、震災の直接的被害は少なかったものの風評被害や間接被害等により地域経済が減衰しており、本町においても、風評被害が観光事業者を中心に大きく、修学旅行や合宿などの団体客の大幅な減少から、宿泊業ばかりでなく、それに関連する事業者に対する間接被害も大きく広がっている状況にあります。

このような状況の中、本町では、震災による被災事業者並びに原子力災害の風評被害により事業収益が前年に比べ大きく減収となった事業者に対して、県の「ふくしま復興特別資金」を活用し、融資の上限額 1,000 万円について、県の利子補給期間である 3 年に、町が独自に利子補給期間を 3 年を追加して、利子補給期間を 6 年間とするとともに、信用保証協会の 6 年間の保証料を町が補給する金融支援を実施しておりますので、当面の運営資金等に活用して頂きたいと存じます。

次に、雇用情勢であります、「ハローワーク会津若松」によりますと、平成23年6月の月間有効求人倍率は、全国では0.63倍、福島県内では0.57倍、会津若松管内では0.47倍となり、依然低水準ではありますが、前年比ではわずかでありますが上昇している所であります。

しかし、町内雇用状況は、依然として厳しい状況にありますことから本町としては「猪苗代町新規学卒者等就職支援奨励金交付金事業」の周知徹底を図りながら新卒者雇用の促進に努めるとともに、震災の復旧・復興等に係る求人を開拓するなど雇用の確保に努めてまいる所存であります。

（水稲の生育状況について）

次に農業情勢について申し上げます。

本町農業の基幹作物であります水稲の生育状況であります、原子力災害による田植えの遅れと7月下旬の低温の影響を受け、3日から5日程度の生育の遅れとなっております。

しかし、今年の梅雨明けは平年より2週間も早く、連日好天にも恵まれたことから、生育は遅れているものの、平年並み或いはそれ以上の収量が期待できるところであります。

8月の水稲の作況概況によりますと、県内は

103の「やや良」で全国的は101の「平年並み」の見込みとなっておりますが、東日本大震災により作付面積は減少しているものの、予想収穫量は国の需要見通しを上回ることから「やや過剰」と予想しているところであります。

（認定こども園の進捗状況について）

次に、認定こども園進捗状況について申し上げます。

川東地区認定こども園の整備につきましては、8月5日に幼稚園舎増築工事請負本契約を締結したところであります。

その後、安全祈願祭が執り行われ、来年の3月完成を目指して、増築工事が順調に進捗している所であります。同時に平成24年4月の開園に向けての保育指針並びに教育課程等の編成、組織体制等の管理運営計画の策定を進めているところであります。

さらに、こども園の名称について広く募集しておりましたが、こども園として、多くの人が言いやすく、聞きやすく、覚えやすく、そして観音寺川の桜、桜の里として町づくりを推進していることなどの総合的な視点から

「猪苗代町立さくらこども園」と決定いたしました

たのでお知らせいたします。

次に、平成２２年度における教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価についてであります。８月９日に教育委員会外部評価委員会を開催して実施いたしました。

評価対象の事案は、教育委員会関係１件、学校教育関係６件、生涯学習関係７件であり、平成２２年度における取り組み状況について、総合評価の判定をして頂きました。

総合評価は、Ａ評価が８件、Ｂ評価が６件となり、さらに改善する事項や問題・課題等のご意見やご指導を賜りましたのでこれらを真摯に受け止め、今後の学校運営等に反映させてまいり所存であります。

（提出議案）

最後に、本定例会に提出いたしました議案について申し上げます。

提出いたしました案件は、

専決処分の報告案件が１件

平成２２年度決算の認定案件が３件

平成２３年度補正予算案件が１４件

条例の一部改正案件が３件、

指定管理者の指定に係る案件が１件

町道路線の変更案件が 1 件

人事案件が 4 4 件の計 6 7 件であります。

まず、認定第 1 号「平成 2 2 年度猪苗代町歳入歳出決算の認定について」であります。一般会計及び特別会計に係る決算書と監査委員の「平成 2 2 年度猪苗代町各会計決算及び各基金運用状況審査意見書」と「平成 2 2 年度地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく審査意見書」を添えて提出しております。

また、一般会計及び特別会計の会計別概要につきましては、別に提出しております「平成 2 2 年度決算にかかる主要な施策の成果実績概要書並びに基金運用状況報告書」のとおりであります。

決算の内容につきましては、会計管理者に説明いただきますので、何卒ご認定賜りますようお願い申し上げます。

次に、認定第 2 号「平成 2 2 年度猪苗代町病院事業会計決算の認定について」及び認定第 3 号「平成 2 2 年度猪苗代町水道事業会計決算の認定について」であります。各々の決算書と監査委員の「歳入歳出決算の審査意見」と「平成 2 2 年度地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく審査意見書」を添えて提出しております。

決算の内容につきましては、保健福祉課長及び上下水道課長に説明いたさせますので、何卒ご認定賜りますようお願い申し上げます。

同意第3号「猪苗代町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて」でありますが、

猪苗代町教育委員会委員の^{いわはしのりお}岩橋紀男氏が平成23年9月30日をもって任期満了となりますので、

猪苗代町大字川桁字家西3476番地

^{いわ}岩 ^{はし}橋 ^{のり}紀 ^お男 氏

を適任と認め任命したいので、同意を求めるものであります。

次に、同意第4号「猪苗代町固定資産評価員の選任につき同意を求めることについて」でありますが、固定資産評価員が欠けておりましたので、

猪苗代町大字山潟字^{じょうこぶん}上戸分534番地

^{おおかわら}大川原 ^{ひさお}久夫 氏

を適任と認め選任したいので同意を求めるものであります。

次に、同意第5号から同意第11号の「猪苗代地区財産区管理委員の選任につき同意を求めることについて」であります。現委員が平成23年9月30日をもって

任期満了となりますので議案書記載のとおり、

ささおかまさと わたなべわきち ほんだたかし こいたばしゆきお
笹岡正人氏、渡部和吉氏、本多隆氏、小坂橋幸男氏、
あなざわようへい ほんだひろし ほんだつとむ
穴澤洋平氏、本多央氏、本多努氏

の各氏を適任と認め選任したいので、同意を求めるものであります。

次に、同意第12号から同意第18号の「翁島地区財産区管理委員の選任につき同意を求めることについて」であります。現委員が平成23年9月30日をもって任期満了となりますので議案書記載のとおり、

えんどういさお さがひさと つりまさよしひろ わたなべしげる
遠藤功氏、佐賀久人氏、釣巻善宏氏、渡部茂氏、
き た み つとむ にへいまさもり のぐちかずのり
喜多見勉氏、二瓶昌盛氏、野口一則氏

の各氏を適任と認め選任したいので、同意を求めるものであります。

次に、同意第19から同意第25号の「千里地区財産区管理委員の選任につき同意を求めることについて」であります。現委員が平成23年9月30日をもって任期満了となりますので議案書記載のとおり、

こばやしそうち あさのしげる こばやしかおる あだちひさと
小林總市氏、浅野茂氏、小林薫氏、安達壽人氏、
ながぬまかずお そうまひろゆき こばやしきみゆき
長沼一夫氏、相馬裕幸氏、小林公行氏

の各氏を適任と認め選任したいので、同意を求めるものであります。

次に、同意第 26 号から同意第 32 号の「月輪地区財産区管理委員の選任につき同意を求めることについて」であります。現委員が平成 23 年 9 月 30 日をもって任期満了となりますので議案書記載のとおり、

おたけはしめ おおかわらつねよし あべふさよし おおかわらこうきち
大竹 始 氏、大川原常吉氏、安部房義氏、大川原浩吉氏
あべたかし しばたこうし あべさだじ
安部 崇 氏、柴田幸司氏、安部定次氏

の各氏を適任と認め選任したいので、同意を求めるものであります。

次に、同意第 33 号から同意第 39 号の「長瀬地区財産区管理委員の選任につき同意を求めることについて」であります。現委員が平成 23 年 9 月 30 日をもって任期満了となりますので議案書記載のとおり、

わたなべかずえい さぜまさき じんすすむ ほんだみのる
渡部一栄氏、佐瀬正喜氏、神進氏、本多實氏、
さとうちから あべよしなり たけだはるお
佐藤力氏、阿部吉作氏、武田春男氏

の各氏を適任と認め選任したいので、同意を求めるものであります。

次に、同意第 40 号から同意第 46 号の「吾妻地区財産区管理委員の選任につき同意を求めることについて」であります。現委員が平成 23 年 9 月 30 日をもって任期満了となりますので議案書記載のとおり、

わたなべしんいち えんどうひろし おぐらもりのぶ にへいふじ お
渡部慎一氏、遠藤博氏、小椋盛信氏、二瓶藤雄氏、
おおほりかずお ゆいただゆき わたなべきよたか
大堀和雄氏、由井忠幸氏、渡邊清孝氏

の各氏を適任と認め選任したいので、同意を求めるものであります。

以上、提出案件につきまして、ご説明申し上げましたが、各議案の細部につきましては、それぞれ所管の課長に説明いたさせますので、慎重にご審議のうえ、速やかなご議決を賜りますようお願い申し上げます。

どうぞよろしくお願いいたします。

以 上